

顔面、四肢に皮疹が出現し、2月下旬より筋肉痛、筋力低下が出現し、皮疹も増強したため、4月1日当科に入院した。顔面は浮腫状で紅斑を認め、四肢関節伸側にも紅斑がみられた。頸部屈筋、腹直筋、眼輪筋、口輪筋、咬筋、胸鎖乳突筋などで筋力低下を認めた。赤沈 27 mm/h、抗核抗体 160 倍、抗 ENA 抗体 (-)、抗 Jo-1 抗体 (-)、GOT 72 IU/l、LDH 734 IU/l、CK 1,622 IU/l。典型的な皮膚所見、筋肉痛・筋力低下、筋原性酵素の上昇などから皮膚筋炎と診断し、球癩痺様の症状も呈していたため、入院翌日から PSL 60 mg/日を開始した。筋肉痛ならびに筋原性酵素は速やかに改善し、皮膚症状も軽減、筋力低下も徐々に改善した。

最近、悪性腫瘍の治療後に皮膚筋炎の改善を認めた例がいくつか報告されている。しかし、本例では、むしろ手術を契機に症状が急速に増悪しており、臨床上新注意が必要と考えられた。

#### 6) 悪性腫瘍を合併した PM/DM の検討

長谷川 尚・渡辺 武  
黒田 毅・鈴木 栄一  
中野 正明・荒川 正昭 (新潟大学第二内科)

【目的】悪性腫瘍を合併した PM/DM の臨床的特徴を明らかにする。【対象、方法】1982 年以降当科に入院した、Bohan らの診断基準で probable 以上を満す、PM 23例、DM 19例を対象として、悪性腫瘍を合併した 7 例を抽出し、その他の群 35 例と、臨床所見を比較した。【結果】7 例 (PM 2 例、DM 5 例) に悪性腫瘍を認めた。悪性腫瘍を合併した 7 例を、悪性腫瘍非合併例 35 例と比較すると、筋炎発症年齢は、平均 63.9 歳と高齢であり、ガンマグロブリン分画の低値、リウマトイド因子の低値を認め、免疫異常が軽度であることが示唆された。

【まとめ】高齢発症で免疫異常の軽度な PM/DM では、とくに、悪性腫瘍の合併を念頭に置く必要がある。また、筋炎の再発例や改善が乏しい場合、悪性腫瘍が潜在している可能性がある。さらに、筋炎の経過中に、重複癌を合併することもあり、新たな悪性腫瘍の発症に対しても注意が必要である。

## II. 特別講演

「膠原病における接着分子の役割」

埼玉医科大学総合医療センター第二内科教授

安倍 達 先生

### 第59回膠原病研究会

日時 平成6年11月9日(水)

午後6時～

場所 有壬記念館

#### I. 一般演題

(テーマ: リウマチ治療薬の副作用)

#### 1) 当院における Bucillamine による Yellow Nail Syndrome の検討

野沢 悟・若杉三奈子 (新潟県立瀬波病院  
リウマチセンター  
内科)

石川 肇・遠山知香子  
中園 清・村澤 章 (同 整形外科)

Yellow Nail Syndrome は、黄色爪、リンパ浮腫、呼吸器病変を主徴とする症候群で、RA では、D-penicillamine や Bucillamine の副作用として知られている。当院の Bucillamine によると考えられる Yellow Nail Syndrome を 7 例経験したので報告した。

対象は、1993 年 4 月から 1994 年 5 月までに当センターに入院した本症候群を有する RA 7 例で、全例女性、平均年齢 61.7 歳、平均罹病期間 18.9 年、6 例が stage IV の RA、6 例に Sinobronchial Syndrome、2 例にリンパ浮腫、また 2 例にアミロイドーシスを認めた。

Bucillamine は、単にケラチン蛋白の合成を阻害しているだけでなく、何らかの原因でリンパ還流を低下させている可能性があり、Bucillamine を開始してから副鼻腔・気管支症状が顕性化する可能性があること、さらに、Bucillamine の中止により症状が軽減することから推察された。また、四肢のリンパ浮腫は、Bucillamine の内服に全く関係なく経過する場合があります、Bucillamine の作用するリンパ管にも違いがあるように思われた。

気道病変を伴った RA では、Bucillamine により Yellow Nail Syndrome をきたし易いので注意が必要と考えられた。